くまもと九条の会ニュース

2005.7.15 Vol.4

編集・発行　くまもと九条の会
編集局　熊本市奥古閑町1729　真行寺内
発行責任者　木村浩則（TEL 090-6423-1064）

戦争と宗教

真行寺住職　藤岡崇信

昨年、ドキュメンタリー作家・森達也さん（非戦・平和を願う真宗者の会・熊本顧問）の講演を拝聴して種々の示唆を受けた。

その一つは、ブッシュ大統領の強固な政治信念の内実の問題である。

今日のイラクにおける大量殺戮に至ったその発端の第一を、マスコミは中東の豊富な石油利権をアメリカの支配下に置くことにあると指摘したが、ことここに至り、一体そうであったのかという問いである。

何故なら、富とか名声とか、それらは確かに古今東西を問わず人間性を狂わす大きな要因であるということに違いないが、これ程多くの死者を生み、苦しみ・悲しみ・惑うイラク国民の現実を目の前にし、それが己の指揮によるものであるという事実に思い至った時、人は欲望達成という一点で耐えうるのであろうか？という精神上の問題からの指摘である。

当事者は殺戮行為続行への決意は鈍り、精神に異常をきたす程の煩悶状態に陥るのではなかろうか？

しかしブッシュはイラクにいかなる地獄図が現出しようとも、己の政治手法を一顧だにしない。逆に自己の政治信念を頑固に貫くのみである。

去る大統領選の直後、選挙戦の戦法としてブッシュはかたくなに侵略戦争遂行を主張したが、今後は人間性あふれた平和協調路線に転換するのではないかとの希望的観測も囁かれたが、今日に至るまでブッシュにそのような姿勢のかけらもみられない。

このような状況から考えるとブッシュは「ブッシュ流のキリスト教信仰」を根底とした「イラクに真の民主主義国家を樹立する。そして世界平和を築く」という確固たる大義を抱き、その道を邁進しているのではないかという推論である。

なるほど、欲望に引きずられてという理由では実行不可能な残虐行為も、宗教に裏付けられた「善」であるならば、どのようなおぞましいことも行いうるであろう。

更にその宗教が単純な輪廻転生の教義を持ったものであればどうだろう。神や仏の思召にかなった聖なる行為の末に死に至れば間違いなく至上の世界に生まれるという信仰により、何も恐れることはない、どんな残忍行為も平然とやれる境地に至るのではないか。

これは単に政治と宗教が一体化した状況を推測しているのではない。一九四五（昭和二十）年八月十五日までの約八十年間のわが国の国家神道と大日本帝国の歩みがまさにそれを実証してきたのである。

大東亜共栄圏建設という美名のもとに、アジア諸国への進出をこころみ、その国民を蔑視し、多くの死者を生んでも平然として省みることがなかった。

またこの無謀な戦争にかり出され、戦死した兵士を英霊として靖国神社へ祀り、天皇が参拝するというシステムをもって死者と遺族の感情を慰撫し、転換させる装置をこしらえてきた。

私は今日のブッシュ政治と、かつてのわが国の皇国思想・大東亜共栄圏思想を重ね合わせる時、改めて政治と宗教との結びつきの恐ろしさ、独善に陥る人間の危うさ悲しさを思わずにおれない。

であればこそ、仏の教えを仰ぎ、そしてその教えの光によって生じる己の「影」を凝視し続けた親鸞の生きざまを私は世界に向かって訴えたい。ブッシュのこころに届けと願うことである。そこにこそ真の世界平和は生まれないのではないかと思うからである。

日本国憲法

第２章　戦争の放棄

第９条　①日本国民は、正義と秩序を基調とする国際平和を誠実に希求し、国権の発動たる戦争と、武力による威嚇又は武力の行使は、国際紛争を解決する手段としては、永久にこれを放棄する。

②前項の目的を達するため、陸海空軍その他の戦力は、これを保持しない。国の交戦権は、これを認めない。

今も続く妙照寺の殉難者慰霊祭
熊本大空襲から六〇年

一九四五年七月一日、夜から翌朝にかけての熊本市大空襲で、新市街、下通、水道町、大江、本荘などがアメリカ軍の猛攻を受けました。その結果、県庁、県会議事堂、図書館、専売局、郵便局をはじめ、白川、黒髪、壺川、本荘などの学校や、熊本中学校、済々黌、大江高女、熊本医大等は全焼しました。非戦闘員の被害は、死者四六九人、重軽傷者五五二人、行方不明一三人、被災者四二，六八七人、家屋の焼失は約一万二千戸にも達しました。しかし六〇年経った今日、当時を偲ばせるものは殆どありません。その惨状を語り継ぐ人々も年々少なくなってきています。

そんななかで、サンロード新市街裏の郵便局通りにある妙照寺では、毎年七月二日、戦災殉難者慰霊法要と平和祈願の慰霊祭が行われています。

戦前も新市街は、劇場、映画館、百貨店、食堂などが並ぶ繁華街でした。それが大空襲で一夜にして廃墟となりました。焼け跡からは一二〇余の遺体が見つけだされましたが、犠牲者の大半は、老人、女性、子供で、何人が犠牲になったかは正確にはわかっていません。

一夜にして母と妻子8人を失った栃原卯一郎さん（故人）が、復員後、新市街一帯の犠牲者を調査して五七人が確認されました。一九四七年七月二日に供養塔が建てられ、隣接して妙照寺が建立されたのです。今では、八〇名の犠牲者が過去帳に記載されていますが、同一家族の方が一〇家族以上含まれています。今年も七月二日正午から、慰霊法要・平和祈願の慰霊祭が行われました。

妙照寺連絡先　電話096（324）8458

「真珠の首飾り」公演実行委員会に取り組んで

熊本YMCA ICR　上田　潤一

昨年の十一月、青年劇場から「真珠の首飾り」の公演案内が届いた。同じく十一月一日に産業文化会館にて「くまもと九条の会」発足記念として開催された、ベアテ・シロタ・ゴードンさんの講演会に参加したばかりだったので、彼女を主人公にしたこの演劇をぜひ熊本でも開催したいと思った。

熊本YMCAとしても戦後六十年、被爆六十年を迎える二〇〇五年に、何ができるかを模索していた時期だったので、公演開催に対して、全面的に支援することを決定した。

早速公演準備会が発足し、最終的に約三十名の熊本公演実行委員会メンバーが集まり、大阪大学の猪飼隆明教授に実行委員長になっていただき、熊本市民劇場代表幹事の山本友晴先生に事務局長をお願いし、熊本YMCAに事務局を置く体制で公演開催に向けて準備がなされた。

公演は、六月十七日（金）午後と十八日（土）夜の二回開催となり、結果として一般九二五枚、学生以下八二五枚の合計一七五〇枚の売上で、両日で約一七〇〇名の方々が観劇した。その中で、特に大学生以下八二二名（熊本YMCA学院生七一六名を含む）の若い世代の人びとが観劇したことが、大きな成果となった。

学生のアンケートの中に、「前日までにインターネットで調べて、内容を理解していたつもりでいたが、憲法用語などが難しくて、私はどのくらい理解していたのか疑問です。ただベアテ・シロタ・ゴードンさんたちがみんなの意見を聞いて、考えをまとめて作り上げた日本国憲法は、素晴らしいものだと分かりました。私は日本国憲法がこのように作られているとは知りませんでした。これから私たちにできることは、憲法を学び、政治に関心をもって、二十歳になったら、自分の意見を持って選挙の時に投票することだと思いました。」という素直な感想と大人となった時の責務を語ってくれた。

憲法誕生の歴史的な意味や憲法の中に込められた思いの深さ、特に男女同権の条項に関するベアテ・シロタ・ゴードンさんの熱意と平和憲法が今でも充分に世界に誇れるものであることを、演劇を通して学ぶことができたと思う。

公演の収支については、約三十五万円の黒字となった。その中の十万円を「くまもと九条の会」の支援に使われることになった。公演実行委員メンバーであり、くまもと九条の会事務局長である熊本大学の木村浩則先生に手渡されたことを合わせて報告する。

「毎週の街頭宣伝、通算122回」

わたしたち『戦争を許さない！熊本県民連絡会』は、２００２年３月から「有事立法反対」「自衛隊イラク派兵反対」などを毎週木曜日パルコ前で街行く人々に訴えてきました。昨年１０月からは「９条を守ろう！」の内容に変え、通産１２２回の宣伝・署名行動を継続しています。内容を「９条を守ろう！」に変えてすぐは、かなり反応が悪かったのですが、いまでは若い人を中心に反応がよくなっています。「がんばってね」と声をかけてくれる人も増えてきています。なかでも、下通りでたむろしていた高校生に署名をお願いしたところ「そらイカン！僕たちも署名を集める」といって自ら画板を持ち、下通りを走り回りながら署名を集めだしたというエピソードは行動参加者を大変励ましました。

しかしながら、この行動が現在の情勢に見合ったものになっているかというと、残念ながらそうはなっていません。毎週の行動ということもあって、「マンネリ化」「日程消化型」になり自発的な行動参加者が増えないというのも現実です。何故いま９条が大切なのか、それをどう訴えれば伝わるのかをもう一度原点に返り考え直し、その上で、どうすればたくさんの人が自発的に参加してくれるのかを工夫しなければなりません。情勢に見合った行動にするために、新たな工夫と発想で、たくさんの人が楽しんで参加できる行動内容を提案していこうと思います。

この毎週木曜の署名宣伝はどなたでも参加できる行動です。「ああしたい」「こうして欲しい」などのご意見がありましたら遠慮なくお寄せください。そして一緒に「日本を二度と『戦争をする国』にさせないために、憲法９条を守りましょう！」と多くの人に呼びかけ、９条改悪を絶対に阻止しましょう！

戦争を許さない!熊本県民連絡会　重松淳平

事告 行報

五月七日
「憲法を語る」集い
（菊陽町九条の会準備会）

平和の実現はあなたの今から

菊陽町九条の会準備会の学習会で武蔵ヶ丘教会の牧師宮川経範さんの講演を聞きました。宮川さんは「子どもの将来を考えるとき、憲法の問題を考えずにはいられません。」と語られ、一人の人間として、ごく自然にあたりまえのように平和運動に参加されている姿に共感を覚えました。

戦前に、宗教が国に利用され戦争に加担した歴史があり、その反省として、キリスト教徒の人々に九条を守る運動が少しずつ拡がっていることが紹介されました。

「自分たちの歴史を振り返り、過ちを認めそれを反省し、二度と過ちを繰り返させないよう努力する」この考えは、今の社会に一番求められていることではないのでしょうか。

さらに、「平和は願うだけではなく、つくり出すものです。」と言う優しい語り口の中に強い信念が感じられ、宗教に対しても少しイメージが変わりました。

子育てに関わる者として、恒久平和を謳った憲法九条は次世代に残す貴重な財産として守っていかなければならないと決意を新たにしました。

（保育士　近藤澄子）

五月三十日
非戦・平和を願う宗教者ウォーク
イン・熊本・二〇〇五
（非戦・平和を願う宗教者の会・熊本）

五月三十日午後四時から、右記名称の非戦・平和を願うアピール行動が、熊本市内にて約百二十名の参加を得て行われた。

まず辛島公園において集会を開き、その後午後六時まで、新市街・下通りのアーケード街にてアピール・ウォーク、あるはまた各ポイントに分かれての辻説法や憲法九条を守るための街頭署名などを行った。

各派・各宗教をこえて、「非戦・平和を願う」という一点のもとに『宗教者の会』が結成され、そしてこのように共に行動するに至ったことは誠に意義深いものであった。

しかし…、それは私たちを取り巻く現実が、それだけ機器的かつ猶予なき状況にあることの証にも違いない…そのことを改めてお互いが痛感した機会でもあった。

（大松龍昭）

公開講演会のお知らせ

日時…8月28日(日)午後7時より
場所…本願寺派熊本別院（熊本市坪井）
講師…信楽峻麿師（元龍谷大学学長・本願寺九条の会代表）
講題…宗教者と憲法問題
会費…1000円
問い合わせ…広徳寺（遠山）096-384-2425
真行寺（藤岡）090-8915-9645
主催…非戦・平和を願う真宗者の会・熊本

六月五日
あまくさ九条の会発足式

555人参加で発足集会

あまくさ九条の会は、五月十四日本渡市民センターで記念集会を開き、天草全土から五五〇人が参加し正式に発足しました。講演は憲法学者で元衆院議長の土井たか子氏が行いました。この記念集会の成功のために、入場料を「九九九」円とし、ポスター、チラシの新聞折り込みなどを天草全土で展開して、入場券の普及に努めました。

この正式発足は、広く天草全土で運動を起こしていくために、半年以上の時間をかけて準備されました。準備会で6人の事務局を構成し、毎週のように会議を開いてきました。発足総会で、宮崎定邦弁護士、刈谷潤テアトロ天草代表、海秀道東光寺住職の三人が共同代表に選ばれましたが、この準備の期間に、この三人の呼びかけに賛同した人は一五〇人となりました。本渡市長、天草文化協会長、天草郡市医師会長、ＪＡ本渡五和組合長、ＪＡ天草組合長、天草森林組合長などなどです。

講演の後、発足総会が開かれましたが、賛同会員からのメッセージ発表や子供達の合唱もありました。県民過半数の署名を集めるために、天草の旧町単位に「九条の会」をつくっていくこと、確信をもって運動を展開できるように、「九条を自分のものとする」学習会を計画していくことなどが確認されました。（生駒研二）

六月五日
みなまた九条の会発足記念講演会

記念講演に 報道写真家の石川洋文さん

六月五日（日）、ベトナム戦争などの取材で有名な報道写真家の石川文洋さんをお迎えして、みなまた九条の会発足記念講演会が水俣市文化会館で行われました。

四月二十二日に百七十人の参加で迎えた発足式から、まだあまり時間が経っていませんが、その倍の三百五十人の方が集まってくださいました。

真っ暗な会場にスライドで憲法九条の条文が大きく映し出され、会の賛同人にもなってくれている中学生男女二人が、地元演奏家有志のピアノ演奏をバックに条文を朗読することから会が始まりました。続いてフルートとクラリネットが加わってのミニコンサート、水俣九条の会代表委員の田中孝典さんの開会挨拶と続きました。

そして、前半の締めくくりとして、発起人の一人で作家の石牟禮道子さんからのメッセージが紹介されました。

講師の石川文洋さんは冒頭、「毎日映画社でニュース映画のカメラマンをやっていた時代、

行事報告

水俣病事件に出会い注目していた。二年前に「日本縦断徒歩の旅～六十五歳の挑戦～」をした際には、名所・旧所には一切立ち寄らなかったが、ずっと訪れてみたかった水俣病資料館と鳥取砂丘だけには立ち寄った。招待いただいて嬉しい。」と、水俣への思い入れがあったことを述べて下さいました。それから後は、自ら撮影された八十枚の貴重なスライド写真を順次写しながら、戦争がいかなるものであるかをお話されました。ベトナム戦争で使われた枯葉剤が、世代を超えてもたらしている後遺症、ベトナム、カンボジア、ソマリア、沖縄、どこにも共通する地雷や不発弾による被害、家族を失った人達の心の傷。その写真に写っている一人一人に実際に会っている石川さんのお話は、爆弾の下でこういうことが起きるのだということを、まざまざと感じさせてくださいました。

石川さんは、講演中何度も「命が一番大事です。」と強調されました。自身も、ベトナム取材中、写真を撮るために降車していた数分間に、ジープが地雷を踏んで大破するという経験をされています。その時死んでいたら、その後四十年間に出会ったすばらしい経験や、感動はありませんでした。そういう人生を送れなかった、大勢の若い人々の死が不憫で残念ですという石川さん。優しく正義感の強いお人柄が伝わってきます。

石川さんは、ベトナムでも韓国でも中国でも、戦争のことは教育の中で丁寧に教えられており、日本人が何をしたのか、彼らはよく知っている。一方で、日本は、先の戦争の加害・被害の実態を明らかにして総括するということをしていない。戦争の本質を教育の中でしっかり伝えていない中で、政治家や教師やジャーナリストが育っているから、ますます伝わらなくなり、小泉総理のいち早いイラク攻撃支持や靖国神社参拝などということが起きてくる。その総理を支持し、認めているのは私たち日本人なのですよ。ということも指摘されました。

石川さんは、「軍隊はいらない。軍隊がある限り永遠に戦争はなくならない」と言います。どこの国でもそうだが、軍隊は民間人を守らない。そして人を殺す殺される中で、ナショナリズムを高揚させ、戦争反対が言えない雰囲気をつくってしまう。一旦戦争が始まれば、民間人が多数犠牲になることは目に見えています。ですから、戦争はしない、軍隊は持たないと約束した憲法九条を世界中に広めていくことが大切なのですと訴えられました。

一時間三十分の予定で始まった石川文洋さんの講演は、二時間たっぷり続き、それでも話し足りないことがたくさんあられたようでした。

この講演を受けて、最後に挨拶に立った吉井貞夫代表委員は、「今日の講演をさらなる原動力として、いっそう多くの人と手をつないでがんばらなければならない」とたいへん気合の入った挨拶で締めくくりました。

この日、会場で賛同人になられた方が十九人。署名一四六筆が集まりました。（高岡朱美）

行事予定

熊本市で大講演会＜全国九条の会との共催＞

講　師　九条の会の9人の呼び掛け人のうちの2人と、小森陽一さん（九条の会事務局長）

と　き　11月22日（火）18時30分～

ところ　熊本県立劇場大ホール

分野別にも九条の会を

「非戦・平和を願う宗教者の会・熊本」が誕生し、憲法9条を守るために、宗派を越えた活動が始まっています。こうして熊本でも、弁護士、医師、学者・研究など分野別の九条の会づくりの具体的な検討が始まっています。

分野別の九条の会ができれば、いま「宗教者の会」の方々がやっておられますように、①その分野の中での賛同者づくり、②地域九条の会づくりの呼び掛け人への参加、③他の九条の会などの憲法学習会への講師の派遣、④その分野の各種の行事なぞを生かした憲法学習や署名活動、⑤社会的にもアピールする独自の集会や街頭署名行動、等それどれの状況に合わせた活動が可能になってきます。

全国九条の会のアピールは、「『改憲』のくわだてを阻むため、一人ひとりができるあらゆる努力をいますぐはじめること」を訴え、くまもと九条の会は、日本を「戦争をする国」にさせないために、国民一人ひとりに働きかける人口過半数の署名運動に取り組んでいます。そのためには、職場・地域に網の目のように九条の会ができて行くことが必要ですが、分野別にも九条の会ができれば、この活動はさらに相乗的に進むことができます。

いま全国各地で、女性、青年、学生、教員、商工業者、文化（演劇、俳句、川柳、美術など）、スポーツ、芸能、医療・福祉など創意ある分野別九条の会づくりがすすめられています。

〈編集後記〉　紙面にもあるように、地域九条の会の活動は日を追うごとに広がっています。他方で、7月7日自民党新憲法起草委員会・要綱（第一次案）の公表、栃木での「つくる会」教科書採択など、「改憲」に向けた動きも着々と進んでいます。だからこそ草の根からの地道な運動をさらに広げていくことが必要です。7月30日には、全国九条の会が東京有明で一万人集会を予定しています。ご支援よろしくお願いします。（木）

くまもと9条の会では憲法改悪反対の署名行動を活動の大きな柱としています。第4回集計では

42436筆

の署名をいただきました。今後ともこの署名活動を会員の力で推進していきましょう。